

「文法の視覚化で苦手を克服する」

宮城高教組小牛田農林高校 佐々木忠夫

1. はじめに

現勤務校の小牛田農林高校は、名前は農林高校であるが、総合学科3クラス農業技術科2クラスの構成になっている。私は再任用3年目で、同校の勤務13年目である。今年度は農業技術科科学コース1年の担任であり、授業のほとんどが1年から3年までの農業技術科を担当している。

勤務校の総合学科は地域の中학생には人気があり、郡部の高校ではあるが定員を割ることはない。また、農業技術科は科学コースと土木コースの2つにさらに分かれていて、同一地域にある工業高校に次ぐ人気である。

しかし、どちらの科も入試学力は着実に落ちてきている。特に農業技術科の低下は激しい。英語の入試で一桁や10点台の学力点で入学してくる生徒もいる。当然アルファベットも怪しい生徒がいる。授業での教師の話聞いて理解することが難しい生徒が多く、同じ話を何度もしなければならぬことも多々ある。

2. 文法の苦手な中高生

江利川春男編著の「共同学習を取り入れた英語授業のすすめ」には次のようにある。

「中学2年生を対象にしたベネッセ教育研究開発センター（2009）によれば、英語が「苦手」と答える生徒が61.8%に達しています。苦手分野を尋ねると第1位は「文法が難しい」で、生徒たちの78.6%に及んでいます。」

まさしく本校の生徒は英語が苦手な文法が不得意である。

では、「文法が苦手」とはどういう意味なのだろうか。生徒によればテストなどの文法問題ができないということらしい。

文法とはそれだけのことなのだろうか。文法がわからなければ、英文の意味を正しくとらえることはできないし、単語をただ並べただけでは自分の意思を正確に相手に伝えることもできない。

実際に、中学校時代にどのようにして英文の意味をとらえていたかを聞いてみると、ほとんどは単語の意味を調べて、何となくそれを組み合わせて意味を類推していたということだ。また、高校入試の英作文（最近ではテーマに沿って自由に英文を書く問題が主流であるが）では、日本語と同じ語順になっているものが見られる。

外国語学習は間違いをしながら上達していくものではあるが、文法の基礎基本も定着していないのではどうしようもない。

では、どうして文法が苦手な、読解にも英作文や会話においても文法が使えない生徒が増えているのか。江利川の言うように「オーラル・コミュニケーションを重視する半面で、文法指導を軽視してきました。文の仕組みが理解できないまま、英会話のまねを繰り返させ」たことが大きな原因だと思う。そして、多くの英語教員がそれに疑問を持たずに「英会話ごっこ」の授業を行ってきたことが原因である。

数学者の遠山啓は「おとなは子どもの時代に苦労して学んだことを忘れて、はじめからわかっていたと思ひこんで、今の子どもも難なく理解できると考えてしまいます。教育の仕事では子どもの身に

なることが出発点なのです。」といている。さらに遠山は「教育というしごとでは、はじめがもっともたいせつです。最初に教えられたことは、ずっとあとまで残るもので、途中で変えることは容易ではありません。」「すべては子どもの「頭の悪さ」のせいにしてしまい、教える側に少しも責任がないとってきたのが、これまでの学校教育の常識でした。」とまで言っている。

今、生徒たちの英語に対する悲鳴をきちんと聞き、生徒たちの「頭の悪さ」のせいにするのではなく、日本人のための英語教育を考える必要がある。

3. 文法こそ寺島メソッドで

英文法は英語の読解とその運用のためにあるのであって、テスト（入試問題も含めて）の文法問題を解くために文法学習があるのではない。生徒たちにそのように思わせてきた原因は授業にある。そう思わせないためにも、読解や英作文などの表現活動でも英文法の理解が必要だとわかる授業にする必要がある。

『英語にとって「文法」とは何か？』の中で、寺島隆吉氏は英語の特徴は「固定した語順」と「よく発達している前置詞の体系」と言っている。したがって、この語順の基本をきちんと理解することが文法の基礎基本になる。

同書の中で、さらに「語順」という視点で世界の言語は VSO、SVO、SOV の3つに集約されると言っていて、英語は SVO であり、日本語は SOV であると言っている。また、Greenberg の「前置詞言語」「後置詞言語」の考え方から見ると、英語は「前置詞言語」であり、日本語は「後置詞言語」であるとも言っている。したがって、日本人英語学習者にとってこの語順をマスターすることは必要不可欠の問題であり、その決め手は「動詞」と「前置詞」である。

英語と日本語の最大の違いはその語順である。寺島メソッドの記号を使うことによってそれが視覚化できる。

寺島メソッドの記号は次の通りである。

- (1) 述語動詞
- 助動詞が で、本動詞や準動詞が となる。
- (2) 前置詞句 []
- (3) 従属接続詞（含む関係詞）
- (4) 節・句 []

これらを組み合わせて、英文の構造を視覚化することができる。文法事項のほとんどは寺島メソッドで視覚化ができる。

文法参考書、たとえば「アトラス総合英語」（桐原書店）を見ると、品詞から始まって、語順、文の種類、時制、助動詞、態、不定詞、動名詞、分詞、関係詞、比較、仮定法、文型、名詞、代名詞、冠詞、形容詞、副詞、接続詞、前置詞、疑問文（疑問詞）、否定、強調・倒置、特殊構文、文の転換（話法）と続く。

時制から分詞までは動詞とその変化形の問題である。また、関係詞、仮定法、接続詞（等位接続詞を除けば）、話法は複文構造と動詞を組み合わせた問題である。さらには疑問文の中の間接疑問文もこの領域に入る。比較には前置詞や接続詞の問題が含まれる。

このように見てくると、文法事項のほとんどが寺島メソッドの記号を使うことで文の構造の視覚化ができることがわかる。

3-1 時制・態

述語動詞の形を考えたときに、現在と単純過去の動詞は1つの単語になるが、他の時制や態は助動詞の力を借りることによって、述語動詞は2つ以上の単語で作られる。

しかし、英語の苦手な生徒にとっては、それを見つけることが困難である。そのために、すべての時制・すべての態を一覧にし、その述語動詞を○で囲みながら視覚化する。さらには、現在時制の動詞からすべての時制への書き換えをトレーニングする。その後、それを疑問文・否定文に書き換える。年に何回かそれを行うことで、少しずつ定着をはかることができる。

3-2 ネクサス Nexus で準動詞指導を

準動詞を指導する上で重要なのは、ネクサス(Nexus)の考え方をきちんと指導することである。たとえば、「英語にとって「文法」とは何か？」には次のような例文が出てくる。

- (1) I think him honest.
- (2) I think him to be honest.
- (3) I think that he is honest.

この例文の後に「しかし、この段階では実は不定詞 "to do" が補語であるかどうかという文法用語の問題はどうでもよく、"him" と "to be honest" が意味上の主語述語の関係になっていることをつかませればそれで良い。」と言っている。

そこで上記(1)~(3)に記号をつけると次のようになる。

- (1) I think him honest.
- (2) I think him [to be] honest].
- (3) I think [that he is] honest].

このように、□をつけることで be が動詞としての性格を持っていることがわかりやすくなる。そうならば、その「主語」は何かを考えれば、him が意味上の主語になることが見えてくる。また、この3つの英文が同じ意味であることがわかれば、him と to be honest の関係も推測できる。

3-3 複文（名詞節・副詞節・関係詞節）

文が複文になると、英文が複雑になる。単文ならなんとか意味がとれるが、複文になると途端に英文の意味がとれなくなる生徒が多い。

複文を作るものは、疑問詞（間接疑問文を作る場合）と従属接続詞と関係詞である。『英語にとって「文法」とは何か？』（寺島隆吉）では、これらの文と文のつなぎ方を3つのタイプに分類している。すなわち、次の3つである。そして、これらを複文Ⅰ型、複文Ⅱ型、複文Ⅲ型としている。間接疑問文、従属接続詞、関係詞は今まで別々な説明してきたが、それをたった3つのタイプに分類してしまうのである。それは生徒にとって学ぶべき負担が減ることになる。

- (1) _____ ○ _____ □ _____ ○ _____

- (2) _____ □ _____ ○ _____ ○ _____
 (3) □ _____ ○ _____ ○ _____

さらに、こうすることで複雑であった間接疑問文や関係詞構文を含む複文の構造が、2つの単文に分解できることになる。複文を一挙に意味をとらえることができなくても、単文であればできる。あとは接続詞によって2つの単文の関係を理解するだけなのだ。

3-4 構文

また、構文といわれるものは上記の文法事項に含まれる。たとえば、手元にある「英語構文ワーク100」（数研出版）を見ると、「Itを含む構文」として形式主語構文から始まっていて、不定詞、分詞、動名詞と準動詞の構文が続く、その後、関係詞、否定構文、助動詞、仮定法とほとんどが上記の記号で構造を浮き彫りにできるのである。

たとえば、形式主語構文では不定詞や that 節が真主語になるので、○ や □ や [] を使って、真主語の構造が浮き彫りになるのである。

4. まずは、○ と [] で単文の構造の視覚化を

語順の決め手は「動詞」と「前置詞」であるが、英語の苦手な生徒にとって、その動詞がどれなのかを探せないのである。さらに、前置詞は日本語の助詞の用法に引きずられて、前の(代)名詞とつなげて意味をとってしまうのである。

その2つの語順の特徴を ○ と [] の2つの記号で視覚化したのが寺島メソッドの記号である。

- 1) セン ○ マル セン
 2) [前置詞 + (代)名詞]

さらに、複文を作る接続詞(関係詞や間接疑問文を作る疑問詞も含む)を、□ で、その節を [] で囲む。」

- 3) セン ○ マル セン [□ セン ○ マル セン]

そして、助動詞や準動詞はそれだけでは述語同士になれないので、それぞれ □ と ○ で表す。

当面、英文にはその記号をあらかじめつけておくことによって、構造がわかりやすくなるのである。次にその記号を自分でつける練習をしていくことによって、英文に記号をつけなくても読めるようになる。

5. 語彙と文法どちらを優先させるか

英語学習にとって語彙力の強化は避けては通れないものである。しかし、英語が苦手な生徒に対して、あれもこれも同時に要求することは苦しいことを二重三重に要求することになり、英語学習から逃避することになる。

特に語彙習得には時間がかかる。遠山啓の言うように、教師というのは得意な教科をそれほど苦勞

せずに学習してきているか、苦労したとしてもそれを忘れてしまっていることが多い。そのため、単語集を与えて、「覚えなさい」「テストをします。」と平気で言ってしまう。

しかし、苦手な生徒には、すべての語句の意味を与えても文章の意味がとれることを優先した方が、英語学習の楽しさ、すなわち、わかる楽しみ、伝わる楽しみが味わえるだけ、英語学習を継続していけるはずである。

実際、私の経験では、すべての語句の意味を与えて多読をしたことで語彙が増えた。何度も出てくる語句はいつの間にかヒントである語句の意味を見なくても読み進めていけるようになったのだ。

したがって、当面は英文の語句にはすべて意味を与えることにしている。

6. 授業の中で

実際の授業では次のような教材を作って進めている。

6-1 和訳プリント（資料1）

本校の生徒のほとんどが自分の力で和訳ができないでいる。それは英語の文法の基本である語順が理解できていないからである。まさしく文法の基本ができていない。

このプリントにはすでに動詞を○で囲んであるので、英語の基本語順の

名詞（主語） + 動詞 + 名詞（目的語）

が、視覚化されるのである。さらに、前置詞句も[]で囲んであるので

[前置詞 + (代) 名詞]

となり、意味をとるときには、この前置詞と(代)名詞を入れ替えて意味をとればよい。しかし、英語の苦手な生徒は、この前置詞を日本語の助詞の用法に引きずられて、前の名詞につなげてしまいがちである。また、前置詞という名前もその間違いに拍車をかけるのである。

あとはそれぞれフレーズごとにとった意味をつなげあわせるだけなのだが、短い文であればできるが、ちょっと長かったり、主語の後に後置修飾語がついたりすると途端にできなくなる。

これは英語の力と言うより日本語力のなさが原因である。これをする中で英語と同時に日本語力も鍛えられる。

6-2 フレーズ訳プリント（自分で記号をつける）（資料2）

英文を前から読んで意味を取ることができるようになるためには、自分でフレーズごとに切れるようにならなければいけない。しかし、フレーズ・リーディングをしているだけではそれはできるようにならない。英文のどこに切れ目があるか、わかるようにはならないからだ。

しかし、寺島メソッドの記号であれば、その記号の前後で切れることが一目瞭然である。そのためには生徒自身でこの記号をつけられるようにならなければいけない。

それができるようになるために、(1) 和訳プリントが使えるようになったら、資料2のようなプリントで生徒自らが記号をつけながら、フレーズ訳を作っていく。ただし、最初は(1) 和訳プリントを見て書き写すことから始める。こうすることで、英語の苦手な生徒も抵抗なくこの段階に入ることができる。

6-3 述語動詞変化表

中学校までは述語動詞の変化を一応学習してきているが、それをまとめて学習することはされていないようである。すべての時制・相（・態）をまとめて学習し直すことで見えてくるものがある。しかし、それをやっていないので、いろいろな混乱が起こる。たとえば、be 動詞と一般動詞の使い方を混同したり、進行形と完了形の形があやふやだったりしている。

寺島メソッドでは、これらを「思考実験表（時相転換表）」（資料3）で一気に学ばせる。

進行形が単に～ing 形だと認識している生徒が多い（本校ではほとんどの生徒がそうである）。しかし、単に「進行形」という形はなく、「現在進行形」「過去進行形」「未来進行形」であり、「現在」「過去」「未来」の区別はどこですのかと、生徒に尋ねさえすれば、～ing の形では区別できないことがわかり、その前に be 動詞の「現在形」「過去形」「未来形」が必要であることを告げることで理解は得られる。だが、中学校で定着してしまった「進行形＝～ing」を払拭するのは難しい。何度も練習していくことで徐々にできていく。とくに英語が苦手な生徒は時間がかかる。

また、現在形と過去形以外は、動詞句になっていて、その最初の単語を主語の前に出せば、疑問文ができあがり、その単語の後ろに not を入れれば、否定文ができあがる。それが表で一目瞭然である。

したがって、疑問文、否定文を作るのは現在形と過去形が一番難しいことになる。

6-4 英問英答（資料4）

宮城県の中学校で使用している教科書東京書籍 NEW HORIZON では、最初に習う be 動詞を習う。その疑問文や否定文は基本ではなく、例外である。この例外を最初に学ぶことによって、疑問文の作り方やそれに対する答え方に対して、生徒に大きな混乱を強いているように思う。

本校生徒にとって英語の質問に英語で答えることは相当ハードルが高い課題である。生徒によれば、中学校時代は何を聞かれているかを「聞き取れた単語を頼りに推測して、適当に答えていた。」という。

授業の中で行う英問英答は日本語で考えるとそれほど複雑なことを問うているわけではない。それが英語で行われているから、わからなくなるのである。

きちんと質問の内容が理解できれば、日本語で考えて答えを日本語でだし、それを英語で答えの形式に当てはめればいいのだ。

そのために、英語の質問文の動詞に寺島メソッドの記号をつけることで質問文の構造がわかり、問の内容が理解できる。次に、その答えを日本語で考えて、英文の答えの文の形式に当てはめる。それができるようにになれば、口頭でもできるようになっていく。

英語の疑問文の基本形を次のように考える。

（疑問詞） 助動詞 主語 本動詞 ～？

この質問文を使って、答えの文の形式をきちんとつくる。

まず、主語を代名詞にかえる。主語の後ろに「助動詞＋本動詞」を持ってくる。このとき、助動詞が do/does/did であれば、消える。それ以外の助動詞は消えないことになる。それに答えの主要部分を付け加えるだけでよいのだ。

6-5 文法練習問題（資料5）

生徒たちの文法嫌いはどうして起こっているのか。それは今のコミュニケーション重視の授業の中で、文法を軽視してきていることがひとつの原因である。また、教員側にも問題がある。文法は指導するが、一回指導すれば、生徒は理解し、運用できるようになると思い込んでいるのだ。理解するだけでなく、運用できるように指導することが必要である。

さらには英語の苦手な生徒にとって、文法の規則を実際の英文で理解するときに、たとえば、文法の演習問題をするとき、語彙力がないために問題文の中に意味のわからない単語がいくつもあ

とで、文法以前の問題で学習意欲を失っている。

資料5のプリントは、必要な語句の意味を最初から与えてしまうことで、文法だけに集中できるようにしている。さらに、寺島メソッドの記号を使うことで、当該文法の構造が浮き彫りになる。

昨年の1年生の関係代名詞の授業がその好例である。関係代名詞の句を[]で囲むことによって、2つの単文に分けられ、それぞれの単文の意味をとってから、関係代名詞節が先行詞を修飾するようにして意味をとっていく。並び替え英作文でも、日本文の名詞を修飾する部分を[]で囲み、[]の中と、外をそれぞれ英文にして、それを関係代名詞でつないでいくようにする。

実際に、その授業で、生徒たちは「わかる」「できる」を連発しながら、どんどん和訳をし、並びかえの英作文をこなしていた。生徒は「プリントの英文に記号がついていてわかりやすかった。」「中学校の時も関係代名詞を習いましたが、高校での関係代名詞は中学の時よりも深く習うことができたと思います。(省略)また、動詞の所にマークすることなどすると、とてもわかりやすかったです。」と感想を書いている。とくに、普段は授業に集中できない生徒が、教員の質問に答えたくてしょうがないといったようすで、こちらが質問する前に答えをどんどん言うてしまう姿に感動さえした。

6-6 自由英作文より(資料6)

自由英作文は英語の苦手な生徒にとっては難しい。なぜなら、英訳するための日本語を考えると、日本語ネイティブである生徒は複文だらけの複雑な日本語を考える。それを英訳することはとても難しい。それを単文に分解すれば英訳しやすいのだが、日本語ネイティブにとってそのような日本語を簡単な日本語に書き換えることは、実はとても難しいのである。

したがって、自由英作文を書く前に、簡単な日本語を英語に直す練習をたくさんする必要がある。そして、簡単な日本語を英訳する練習をたくさんする必要がある。

並び替え英作文では、日本語と英語を離しておくのが一般的である。そうすると、生徒の目は日本語と英語の間を行ったり来たりしなくてはならない。その時に間違いを犯しやすいのである。そうではなく、日本語の語句の下に英語の語句を与えておくことによって、そのような間違いをあまりしなくて済み、語順だけに集中することができる。だから、生徒は日本語と英語の語順の違いを認識しやすくなる。

さらに、日本語の主語と述語(動詞)をきちんと見分けられるように、寺島メソッドの記号を日本語につけさせ、英語の語順に並び替えるようにする。こうすることで、英語と日本語の構造の違いがわかり、それをもとに英文を組み立てられるように少しずつなっていく。

生徒は「高校入試の時の英作文より簡単で」、「英語の語順の形を再確認できる」と言っている。さらには「それを元に自分のことを英語で言えるようにもなっている」と言っている。

6-7 英検ドリル問題も寺島メソッドで(資料7)

昨年度から1年生と2年生で英語検定を全員が受験することにした。全員受験するからにはできるだけたくさんの合格者を出さなければならない。

だからといって、問題集をあたえて、「各自でやりなさい」と言ってもやりきれないわけでもない。

それでドリル問題集を資料7のようにすべて問題文に寺島メソッドの記号をつけ、さらに語句の意味を与えて、ひとりで繰り返し学習できるようにした。そして、次のように指示をした。

(1) わからない単語には意味を与える。

(2) 10秒考えてもわからない問題は飛ばして、次の問題を解く。そして、1回分が終われば、すぐに解答解説を読む。

- (3) リスニングは解答解説の日本語訳を読んでから、英文を聞く。
- (4) 英作文は解答例を読んで、その中の語句をいくつか入れ替えて、自分らしい解答を作成する。
- (5) 問題集を7回やることを目標にしよう。

その結果、1冊のドリル問題集を5回以上行った者がほとんどであった。そして、2年生で今まで出なかった2級合格者が出たり、ライティング部門で満点が出たりと今までない結果となった。

7. おわりに

寺島メソッドの記号のつけることは、数学の図形の問題を解くときにその図形に補助線を一本引くだけで今までは見えなかった新しい構造が見えてくるのに等しいと思う。○と□と[]の3つの記号ですべての英文の構造が見えてくるのである。

中学校までは英語が不得意な生徒が「英語が苦手な私でもあの○や[]があると、少しわかりやすくなって、そのプリントの和訳はとてもよいと思います。」と言っている。また、「(和訳は)中学校ではほぼ完成された文の中に習った単語を何個か書いただけだったので、そのときと比べてとてもわかりやすく、自分で解決しやすかったです。」と書いている生徒がいる。中学校で英会話ごっこに時間をかけ、生徒が自ら文意をとらえるための方法を身につけられていない状況なのだ。そして、意味をとらえることはブラックボックス化されてしまっている。これでは、生徒が意欲的に英語学習に取り組みことはできないだろう。

「寺島メソッド『英語教室』魔法の英会話 理論編」の中に「**外国語の習得には時間がかかり、楽しみながら持続できる『易行道』でないと成功しないのです。**」とある。そして、「『やり直しの英語』という場合、『易しい英文』を中心にする余り、しばしば教材の内容が小学生高学年程度であることが少なくないのです。」とあり、それでは「学習意欲が半減します」とある。

深い内容の教材であっても、記号をつけることで英文の構造が見えるからこそ、上記の生徒にとって、あの関係代名詞の1時間の授業は苦しい勉強ではなく、「遊び」のように取り組めたのだと思う。

参考文献

- 寺島隆吉(2000)『英語にとって「文法」とは何か?』(あすなろ社)
- 寺島隆吉・寺島美紀子(2004)『寺島メソッド「英語教室」魔法の英会話 理論編』(あすなろ社)
- 寺島隆吉・寺島美紀子(2004)『寺島メソッド「英語教室」魔法の英会話 実践編』(あすなろ社)
- 山田昇司(2014)『英語教育が甦るとき 寺島メソッド授業改革』(明石書店)
- 寺島隆吉監修・山田昇司編(2016)『寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング』(明石書店)
- 江利川春雄編(2012)『共同学習を取り入れた英語授業のすすめ』(大修館書店)
- 遠山啓(2014)『親と子で学ぶ算数入門』(SBクリエイティブ株式会社)

Part 1

(1) Electricity plays an important role [in our daily lives]. (2) Traditional power plants use a lot [of fossil fuels]. (3) However, [using them] gives off CO₂ [into the air]. (4) This has become a big cause [of global warming].

ヒント

- (1) electricity 「電気」、play(s) 「演じる」、important 「重要な」、role 「役割」、our 「私たちの」、daily 「毎日の」、lives <life 「生活」の複数形
- (2) traditional 「伝統的な」、power 「電力」+plant(s) 「工場」= 「発電所」、use 「使う」、a lot 「たくさん」、fossil 「化石」+fuel(s) 「燃料」= 「化石燃料」
- (3) however 「しかしながら」、using<use の動名詞「使うこと」、them 「それら」、give 「与える」+off 「離れて」= 「放出する」、CO₂ 「二酸化炭素」、air 「空気」
- (4) this 「これ」、have+become<become 「～になる」の過去分詞= 「～になってしまっている」(現在完了)、big 「大きな」、cause 「原因」、global 「地球の」+warming<warm 「温める」の動名詞「温めること」= 「地球温暖化」

問題1 上の語句の意味を下の記号に書き入れなさい。

(1) _____ (は) _____ (を) [~の中で _____
 _____]。 (2) _____ (は) _____ (を) [~の _____
 _____]。 (3) _____, [(ことは) _____ (を)]
 _____ (を) [~の中で _____]。 (4) _____ (は)
 _____ (に) [~の _____]。



問題2 上の日本語を普通の日本語にしなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

Lesson 4 Our Action Can Makes Electricity

資料2

Part 1

問題 次の英文の述語動詞に○、「前置詞＋(代)名詞」に[]をつけ、フレーズごとに和訳しなさい。

(1) Electricity plays / an important role / in our daily lives.

(フレーズ訳)

.....
(全体訳)

(2) Traditional power plants use / a lot of fossil fuels.

(3) However, / using them / gives off CO₂ / into the air.

(4) This has become / a big cause / of global warming.

(5) Now, / clean types of energy / are becoming popular.

(6) One of them / is solar energy.

問題 次の文をそれぞれの時制の文に直し、動詞を○で囲みなさい。
また、下段にはそれを疑問文にして書きなさい。

資料3

study – studied – studied

時 制		
基本時制	現在形	My sister (studies) in the library every day. does study
	原形同形/-(e)s	
	過去形	
	-ed/不規則変化	
	未来形 will+原形	
進行形	現在進行形 am / are / is + ~ing	
	過去進行形 was / were + ~ing	
	未来進行形 will be + ~ing	
	完了形	
完了形	現在完了 have / has + 過去分詞	
	過去完了 had + 過去分詞	
	未来完了 will have + 過去分詞	

疑問文の基本形 「(助動詞) + 主語 + (本動詞) ~ ?」

※ 現在形と過去形は「助動詞 (do/does/did) と本動詞 (動詞原形)」に分ける作業が必要である。

Lesson 4 について次の質問に英語で答えなさい。

疑問文への答え方

(1) 疑問文の基本形 疑問詞 + (助動詞) + 主語 + (動詞) + ~?

(2) 主語を代名詞に

単数	複数
I	We
You	You
He	They
She	
It	

(3) 主語の後に「助動詞+動詞」のように1つの○に

ただし、do/does/did は消える。do のときはそのまま消える。

does が消えるときは-(e)s が動詞につく。did が消えるときは動詞が過去形になる。

(4) その後ろに「答えの中心部分」が来る。

疑問文についているそれ以外の語句はその後に来る。

ただし、名詞は代名詞に変えることが基本となる。

(5) 答えの文の基本形 主語 + (助動詞 | 動詞) + 答えの中心部分 + ~.

Part 1

(1) What (do) ^{昔ながらの} traditional ^{発電} power ^所 plants (use)?

.....

(2) What (does) ^{使うこと} [using a lot [of fossil ^{化石} fuels]] (give) off ^{~中へ} [into the ^{空気} air]?

.....

(3) [By what] (is) solar energy generation ^{影響され} (influenced)?

.....

① 1. 2. のように動詞を○で、関係代名詞を□、関係代名詞節を[]で囲み、資料5
和訳しなさい。

1. I (am looking) at the picture [which] she (painted).
.....

2. I have a daughter [who] is older [than you].
.....

3. This is the book which I borrowed [from him] yesterday.
.....

4. He is the boy whom I met [at the station].
.....

5. A house which has a lot [of rooms] is convenient.
.....

② 関係代名詞を補って使って、日本文に合うように語句を並びかえなさい。

1. スーパーマンは [高いビルも 飛び越えることができる] ヒーロー です。
superman over tall building can fly who a hero is
.....

2. 私は [趣味が 切手を集めること である] 友人が います。
I whose hobby collecting stamps is a friend have
.....

3. [飛ぶことのできない] 不思議な鳥が 沖縄に 住んでいる。
cannot fly which strange birds in Okinawa live
.....

4. [その病院で 働いている] 看護師は みな親切で ある。
in the hospital work who the nurses all kind are
.....

③ () を適切な形に変え下線部に書き入れ、全体を和訳しなさい。

(1) We ^{見つけた} found a boy [_____ under a tree]. (sleep)

(2) The people [_____ in the village ^村] were kind. (live)

(3) The trees [_____ down in the forest ^森] were made ^{~に} into paper. (cut)

(4) The dress [_____ of pure silk ^{純粋な 絹}] looked ^{見えた} very nice. (make)

(5) Who is that man [_____ in the river ^川]? (swim)

④ 日本語の意味になるように語句を並びかえなさい。

ただし、(1)と(2)のように英語にしたときに動詞になる日本語に○、[]が説明している名詞に___を引きなさい。

(1) [電車で 見つけた] 帽子は 私のもの だった。
on the train found the hat mine was

(2) [有名人によって 書かれた] 手紙を あなたは もらったことが ありますか。
by a famous person written a letter you ever received have ?

(3) [その車を 洗っている] 男性は 私の叔父 だ。
the car washing the man my uncle is

外国人に日本の都市を紹介しよう！（助動詞）

提出日：_____月_____日

問題1 次の日本語で、英語にしたときに動詞になるものに○、主語に下線を引きなさい。
次に日本語の意味なるように、語句を並びかえなさい。

(1) 仙台は 緑がいっぱいの すてきな都市 です。
Sendai full of green a nice city is

(2) 仙台は 温泉が あり、 (あなたは) それを 楽しめます。
Sendai a hot spring resort has (and) you it can enjoy

(3) 仙台では、 5月には 青葉祭りが、 8月には 七夕祭りが 開催されます。
Sendai in May Aoba Festival in August Star Festival holds

(4) 青葉祭りでは、 (あなたは) 美しい山鉾巡行を 見る ことができます。
in Aoba Festival you the parade of beautiful floats see can

(5) また、 雀踊りを あなたも 一緒に 踊る ことができます。
and suzume-odori you together dance can

問題2 問題1を参考にして、日本の都市を紹介しましょう。

提出日：_____月_____日

第1回

次の(1)から(10)までの()に入れるのに最も適切なものを1, 2, 3, 4の中から1つ選びなさい。

(1) Last night, Susan and her parents (両親) () [what she should do [after she finishes school]. Susan said [that she wants [to go to college and study history]].
 1 advanced (前進した) 2 discussed (議論した) 3 demanded (要求した) 4 allowed (許可した)

(2) A : What shall we buy Janet (しよう) [for her birthday]?
 B : Well, she loves (). Let's get her a necklace (買う).
 1 discovery (発見) 2 jewelry (ジュエリー) 3 ability (能力) 4 geography (地理)

(3) A : Where do you come from? (～から)
 B : Well, I have lived [in Britain] (イギリス) [for a long time], but () I come [from France]. I was born [in Paris].
 1 originally (もともと) 2 typically (典型的に) 3 generally (一般的に) 4 extremely (極めて)

(4) A : Did you hear [about Peter]? (～について) He () the school soccer team.
 B : I know. He is too busy studying (～過ぎ 忙しい), so he can't play soccer nowadays (最近).
 1 quit (やめた) 2 fed (食べ物を与えた) 3 hung (つるした) 4 stole (盗んだ)

(5) The heavy rain caused a bad (激しい) () [in the area] (地域). Many cars were completely covered (完全に) [by water] (おおわれて).
 1 surface (表面) 2 custom (習慣) 3 weight (重さ) 4 flood

(6) Andy did his best [to be () time (毎日) [for school each day]], but he was late (遅れて) three times last year.
 1 on 2 with 3 up 4 for

※ () time で「時間通りに」、in time for ～で「～に間に合って」